

# 「愛知の磐座」

理事 中根洋治

一般には磐座について、学校では教えないし、各自治体の学芸員でも関知しない傾向にある。

私の場合は高校の先生が、余談で「イワクラ」の話をしてくれた。そのせいか、私の最初の磐は比較的早く20才の頃の、比叡山山頂にある「将門石」であろう。

以来、たびたび磐座の写真を撮ってきた。そして、平成十四年に「愛知発巨石信仰」（以下上巻という）を発行した。これは愛知の磐を中心に、県外を一部載せ、世の中に巨石信仰をアピールしようとしたものである。いうまでもなく磐座は巨石信仰の中の主要な位置を占めている。

愛知の磐座は岡山県に次いで多いのではない。以下上巻と重複するが主な磐を簡単に紹介する。

## 1. 三河の一の宮「砥鹿神社」

（上巻3P参照）  
豊川市の国道151号沿いにある。

奥の院にある「国見岩」について、その後気付いたことがある。それは上部の「国見岩」が男根を表し、下方の絶壁部にある岩戸神社が女陰を表している、ということである。だからこの磐座が古来有名だったのだろう。

奥宮へ行ったら、ついでに南の石段を下りてすぐにある「荒羽々気神社」を訪れるとよい。この神様は、日本古来の神様だったが、ここ以南にあつたアラハバキ神は祭神を変更させられたという。つまり、ここは我が国最南端のアラハバキ神といわれる（「続 巨石信仰」《以下続編という》参照）。この社の後ろを見ると荒々しい巨岩が迫っている。

**奥の院道案内**・・・神社北方約7kmの本宮山（標高差700m余）の奥宮西方約200m。南方からの場合、国道301号の和田峠からスカイライン（無料となつた）の終点駐車場の南約50m。

## 2. 三河三の宮「猿投神社」

（上巻11P）  
豊田市猿投町にある。・・・チラシの番号14・・・現代では三河の中の「西三河」であるが、大和時代は「御河国」で、前記の砥鹿神社は「徳国」であつた。

その御河国の守護神が猿投神社といわれ、この磐は猿投山にある「御舟石」である。他所にもよくある“神様がこの舟に乗ってこられた”という神話になっているものである。

神社後方の山頂近くには、東の宮と西宮がある。東の宮裏にも磐座と申しき磐がある。

**山頂道案内**・・・普通車は神社東側から登ることが出来、標高差約500m進んでまず東の宮入り口へ到着する。その数台置ける駐車場から歩いて20分ほど急登すると東の宮だ。東の宮入り口から西へ下ると西宮へ至る。そこから歩いて15分ほど登ると御舟石がある。

### 3. 尾張二の宮「大県神社」

(上巻37P)

こちらにも本宮山と呼ばれる山の麓に神社がある。犬山市の尾張富士の南側である。磐座が山頂より西の斜面にあるから、神社は本宮山の西麓に位置する。

この磐は「御社根磐」といわれる写真のような磐である。磐の根元をよくよく見ても天然現象と思われる。この磐のことを巫女さんに聞いても教えてくれない。磐を見ればそれもそのはず、ということが分かる。そしてここは別名「姫の宮」といわれる。

道案内・・・電車の「楽田」駅の約2km東方。

現在は新城市である。

上巻169Pの写真のような岩壁が信仰の対象になつていたといわれる。屏風岩ともいわれる岩壁の高さは、約60mで不思議と植物は生えていない。三重県の「花の窟」の場合も岩壁が古来からの御神体となっている。

この岩壁の上から、自分の今までの罪を鏡に写して投げると滅罪の効果があると考えられた。江戸時代になると、岩壁麓の鏡堂へ鏡を奉納する所作が増えた。

愛知県には岩壁信仰が多い、という特徴がある。それらは上巻に14箇所載せてあるが、それぞれ現地へ行ってみると転落するかと思う恐ろしい崖もある。さらに次の石巻山も岩壁信仰になろう。

### 4. 鳳来寺山の鏡岩

(上巻169P)

鳳来町という地名は無くなつて、

道案内・・・門谷から1400段の石段を登るか、もしくは湯谷温泉からのパークウェイ(最近無料となつた)を使つてほぼ鳳来寺本堂近くまで車で行く方法がある。但し上の

駐車場は有料。

なお、古来からの歩く道は各方面(約10方向)からの参詣の道があつた(拙著「忘れられた街道」下巻参照)。

### 5. 石巻山

(上巻15P)

豊橋市北東のトンガリ山である。全山石灰岩で出来ている。石巻神社は豊橋市唯一の式内社で、山上と麓に立派な神社がある。著名な神社によくある清水(名水)はここにもあり、「このしる池」という。後述する岩壁の麓になる。

この山麓の広い範囲を「神村」といい、麓の集落は神郷、そこを流れる川を「三輪川」といわれる。

石巻山は神体山で、頂上の岩山が磐座である、などとよく言われるが、その元は山頂の南東を向く岩壁であろう。その岩壁の途中に「弘法窟」と呼ばれる洞穴がある。この洞穴の中に他の岩屋によくあるように、人

物像とも思われる立石がある(上巻17P)。人為的に彫刻したようには見えないが、豊田市岩倉町の志賀神社西の岩屋(上巻21P)とか、岐阜県萩原町上四美の「こもり岩」と呼ばれる岩屋にも立石がある(上巻298P)。

道案内・・・新幹線からでもよく見えるトンガリ山は、東三河環状線の旧道(別所街道)の三輪川北の信号から東へ入る。新しい環状線は現在工事のため繋がっていないから注意を要する。



弘法窟からの眺め

の厳かな磐  
 だつたらし  
 いから、こ  
 の環状列石  
 (平均推定  
 重量3ト  
 ン)は磐座  
 の周りに築  
 かれた磐境  
 ではなか

つたかと思う。(上

## 6. ストンサークル

環状列石とも言える最も多いタイ  
 プは、その内側が約4000年前の  
 お墓である(上巻111P)。そし  
 て、一般には磐座と異なり、磐境の  
 部類になる。

県内のこのような例は、足助地区  
 (上巻126P)や犬山市(上巻1  
 20P)などにある。

ところが、名古屋北部の小牧山に  
 ある環状列石の場合は、山頂にあつ  
 て、中央に天然の台形状の岩があつ  
 たようである。その中央の岩が天然

巻122P)

現存見られるのは、列石のみで中  
 央の岩は歴史館が作られたので撤去  
 された。

## 7. チラシに載せた磐

### ① 豊田市岩倉町の磐座

(見学コース1・2・3)

陽石と陰石が対になっている(上  
 巻20P)。このように対になつて  
 いる磐が近くの今町にもある(上巻  
 353P)。

平成十六年に東海環状道が出来て

から、山の東側が切り取られ清掃さ  
 れた。その結果分かったことだが、  
 この対になつた磐は岩盤から突き出  
 た部分が、そのイメージを造るため  
 に若干加工されている。

### ② 豊田市野見山の「神石」

(コース1・2・3)  
 (上巻40P)

この磐のある山頂に立派な神社が  
 ある。祭神は野見の宿禰(角力と焼  
 き物の神)。麓の地名は「室町」と  
 いう。磐の前から「神の杜」村積山  
 (1-1)が、また、西側の展望台  
 からは豊田市の町が見える。

### ③ 豊田市長高町の八幡社

(コース1・2)  
 (続編29P)

最もオーソドックスな磐座であ  
 る。拝殿の西側にも厳かな磐がある。  
 県道からの高低差50mほど。  
 そして県道の反対側に「いわくら」  
 という字名があるが、そちらには磐  
 が見つからない。

### ④ 足助地区冷田の「水石」

(コース1・2)

これは雨乞い石である。

長さ15m・巾6m・高さ5mほ  
 どの岩の上面が傾斜した平面となつ  
 て、高い部分に水たまりがある。こ  
 の水たまりが、何と言つても不思議  
 な形である。ナマズのような流線型  
 なのは滝壺であつたとも考えられな  
 い。市道から近いが、岩の上にあが  
 るためには梯子を使う。(上巻30  
 2P)

なお、東加賀郡足助町の名は消え  
 たが、足助は紅葉と、かつての塩の  
 中継された町並みが有名である。

### ⑤ 足助地区白倉のシンメイさん

(コース1・2・3)  
 (上巻232P)

両方からの岩が合掌形式になつ  
 て、今でも白倉地区の氏神さんであ  
 る。背後に鏡のような岩が立つてい  
 る。

ここから南東300mくらいの所

に、「天下峰」と呼ばれる高さ30mくらいの岩壁がある。その頂上に秋葉さんが祀られている。

この岩壁はまた鳳来寺山のような鏡岩とも考えられる。そうすると、ここを流れる川の名前が「鏡川」なので関わりが結びつく。さらに、「白倉」なる地名も磐と関係がある地名なのだろうか。

### ⑥ 下山地区梶の「岩神」

(コース1)  
(上巻352P)

大きな男根形をしている。高さ4mほどであろうか。昔、この横に熊野神社があつたという(今はここから西方200mほどにある)。男根の天辺に穴が有るようだが、高くて確認出来ない。

県道から斜面を30mほど登る。途中から古い石段がある。

### ⑦ 下山地区立岩の「立岩」

(コース1)  
(上巻209P)

これは、愛知県で唯一のメンヒルかと思うような代物である。巴川の北側で、川側へせり出した山の頂上になる。昔はこの岩の隣に神明社があつたといわれる。現在では北隣に、秋葉山・神明社・金比羅さんがある。巨石信仰に間違いはないであろう。

### ⑧ 旭地区伯母沢の妙義神社

(コース1)  
(「続 巨石信仰」29P)

辺津・中津・奥津そろつた典型的な磐座である。この近くの伊熊神社と共に、山奥の集落にある神社がこういう磐のある所へ設けられたのだ。いずれも現代では地元の人達からも磐座は忘れられている。



妙義社 (三つの中の一つ) の磐

### ⑨ 豊田市志賀町「白石観音」

(コース2・3)  
(「続 巨石信仰」41P)

遠くから見ると、山の中腹に見える岩は確かに白い。そこはどんな所だろうかと近づくと、観音さんと灯籠などがある。

この岩の前方にある志賀神社と関係が有るのだろうか。

### ⑩ 豊田市今町の「岩神」

(上巻353P)

岩倉町の磐座というものと同様に、陽石と陰石が並んでいる。元々の岩を多少加工してあるようだ。

場所は、矢作川と第二東名の間の畑の中で、北方に神社がある。

近くの明治用水の橋名が「クブシ岩橋」というが、この岩の名前から先人が橋名としたのだろう。「クブシ」は「くぶし」のことであろうか。

### ⑪ 岡崎市の村積山

村積山は三尊形式の山で、頭上に古代からといわれる村積大明神と、「神霊石」とか「毒石」と呼ばれる石(上巻末の写真)がある。

大分県宇佐市の稲積山は神体山と言える。また関西に積善山があるとかいわれる。「ツム」という言葉に何か神体山と関わりがあるのであるか。どなたかヒントを教えてください。



三尊形式の村積山（三河富士）

### ⑬ 旭地区東萩平の縁結び岩

（上巻395P）

矢作川左岸の山頂になる。

この岩の表面をよくよく探すと、穴があいていて、そこへ松葉を通すと二人は堅く結ばれるという。

### むすび

ここでは、磐座のみならず巨石信仰の各種から選んだ。

ここで挙げたように磐座は殆ど天然の岩であり、山頂が多いから、ある三角形を構成するとか、ある直線の交点に存在するとかいうことはむづかしい。

岩質について、西三河（矢作川流域）は殆ど花崗岩だが、東三河（豊川流域）は中央構造線が通っているから複雑である。

今回は愛知県で「イワクラ（磐座）サミット」を開催することになり、皆さんにご案内することになった。準備も思うように運ばず、ご不満

が沢山あるかと思う。悪しからず。

了

### 付記

#### 豊田市の紹介

元は西加茂郡挙母と言った。矢作川が流れ、山に包まれた盆地。古代から製鉄の産地。昭和三十四年トヨタ自動車（株）の名前から豊田市になる。平成十七年四月東加茂郡・西加茂郡の6町村と合併。現在人口約41万人で県下第2。

上巻（「愛知発 巨石信仰」）には、巨石信仰（磐座）を証明する事柄、巨石信仰の種類、ストーンサークルの各種全国一覧表などを載せた。また、今回のサミットのために発行した「続 巨石信仰」では、磐座がいつごろから信仰されていたかも述べている。

### ⑫ 足助地区飯盛山

（コース1・2車中見学）

（上巻18P）

山の形が、ご飯を山盛りにした形である。この山頂に磐座とされる岩群があり、経塚が出土した所だそうである。岩の各々は数トンありそうだが、どのようにして集められたのであろうか。

この岩群は麓の八幡宮と関わりあるという。（足助町誌）